

## 発想の転換

校長 狩野賢司

今日から二学期がはじまりました。この夏もたいへん暑い日が続きましたが、長い夏休みの中で、子どもたちはご家庭で充実した時間を過ごせたのではないかと思います。そんな楽しい夏の思い出を胸に刻み込みつつ、今日からは気分一新して、二学期に臨んでほしいと思っています。

先日、千葉で開催された全国国立大学附属学校連盟の校園長会に参加しました。その中で特に印象に残ったのは、いすみ鉄道の社長である鳥塚亮氏のお話でした。千葉県の外房側から中央部へと走るいすみ鉄道の再建の話は有名ですので、ご存じの方も多いかと思います。第3セクターとなったいすみ鉄道は、多くのローカル線の例に漏れず、沿線部の過疎化などにより廃止寸前まで追い込まれてしまいます。その立て直しのため社長公募を行い、そこで選ばれたのが鳥塚氏でした。地域の生活の足としてのローカル線では生き残りが望めない状況です。そこで鳥塚氏は発想の転換をはかります。アクアラインと自動車道を使えば、いすみ鉄道までは羽田から50分で来ることができる、つまり都会の人々を楽しませる路線にすることができるのではないかという考えです。

少ない予算の中、どうやって人々の関心を集めるか、その多彩な着想と実行力は素晴らしいものでした。鉄道ファンといえば男性が主力ですが、女性をターゲットとするため、ムーミンのキャラクターのシールを列車に貼り、スタンプラリーを楽しんでもらう。昭和40年作の古い列車を遠方から運んで、田園風景の中を走らせ、もうここでしか見ることのできない昭和の風景を作りだし、それを撮影するために鉄道ファンが集まってくる。地元食材を使った料理を提供する食堂車として、あるいは昭和そのもののフォークソングやジャズの生演奏を聴かせる列車を走らせるなどです。なにもない田舎と思っている地元の人たちでは気がつかない、穏やかな景色の中をのんびり走る列車の姿、昭和の雰囲気漂う情景を前面に出すことで、多くの人を惹き付け、それをまた次世代に繋いでいきたいというお話でした。ご苦労も多かったことと思いますが、それを感じさせない、ユーモアに富んだ話しぶりに会場も沸き立っていました。

鳥塚氏のお話の中で、もっとも印象に残ったのは発想の転換ということでした。求めても新しいものが得られない状況で、今あるものをどのように使っていくか、それまでとは違った見方で捉えて、新しい活路を拓いていく...これは企業などだけではなく、学校にも当てはまると思いました。大泉小学校の中にも眠っている資源はないか、これまでとは違った角度から考えることでもっと教育活動を発展させることはないか、柔軟な視点を持つことでより良い学校にしていきたいと考えています。